

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗

第57回



子どもたちに伝えることば（その8）

## ひとつこと加える！「ありがとう」

### ★褒めることの危険性

「子供を褒めた方が良いのか？ 叱った方が良いのか？」といった議論になると、通常、〈褒める教育〉が推奨されます。

毎日毎日、「だからお前はダメなんだ！」「ぜんぜんできていない」のような、人格否定されるような声掛けをされ、ののしられ、罵倒を浴びせられている子供には〈褒めのシャワー〉を浴びせることで心の傷は癒されます。よって、褒めることはとても素晴らしいことで肯定されるべきです。心がズタズタに傷ついている子には、まず人格を認めてあげて、〈褒めのシャワー〉をこれでもか、と浴びせるしか方法はありません。

しかしながら、ここまでの強い劣等感（自己否定感）を感じていない通常の子供に対しては、褒めるという行為は危険な部分をはらんでいます。なぜなら、褒めるという行為は、上下関係の意味を含んでいるからです。通常は、上司が部下に、親が子に、先生が生徒に褒めるという行為をします。「生徒が先生を褒める」とは言いませんね。その場合は尊敬するということになるのでしょうか。よって、褒めるという行為は、常に、上から下へベクトルが向いているのです。批判を恐れずに言いますと、「相手を見下している」から〈褒める〉という行為につながるのです。

### ★上でもないし下でもない

褒めるという行為は、上から下へベクトルが向いていると言いました。しかしながら、心理学者アドラーも言っているように、相手（子供や部下）は自分の上でもないし、下でもありません、自分と同じ

一人の人間です。よって、褒めるのではなく、感謝の気持ちを伝えることを考えてみましょう。

感謝の言葉は、上の人から下の人に言うこともできますし、下の人から上の人に言うこともできます。よって、感謝は、対等な人間関係においても成立するので、上下関係の意味を含んでいません。上下関係の意味を含んでいないので、子供たちは先生やお母さんの感謝の言葉を、素直に受け入れることができます。

指導者や母親が、思春期の子供にやる気を出させようと「すごい、すごい、一番うまくできているよ」などと褒めて持ち上げようとする、と、「先生は俺を褒めて思い通りに動かそうとしている。本気じゃないくせに、そうはいくもんか」「お母さんは私を褒めてやる気を出させようとしている。全部お見通しなのに」などとシラけてしまいます。子供の感性の鋭さをあなどってはいけません。

それでは、どのように声掛けしたらよいのでしょうか？

### ★「ありがとう」と、ひとつこと加える

そこで、褒めるのではなく、感謝の気持ちを一言加えてみることを考えてみましょう。先ほどの例では「いつも頑張っている姿を見せてくれてうれしい、ありがとう」のようになるのでしょうか。他にも、褒めるような場面でなくても「ありがとう」は有効です。

たとえば、いつも大泣きして道場に来る子が、今日も泣きながら来ました。そのときに指導者の皆さんは、「今日も泣いて来たか……」とうんざりします。泣いている子に「こんにちは！」と挨拶してみ

たものの、泣いたままで反応はありませんし、さらにひとこと付け加えて「ありがとう」と感謝する気になんて、もちろんなれません。

しかし、よくよく考えてみたら、きっとその子のママさんは「今日も笑顔で空手に行こうね！ ママ、応援してるよ！」と背中を押して勇気付けてくれたに違いありません。また、泣いている子も道場に入る直前まで「ママ、頑張ってくるよ！ ボク、強くなるんだから！」と泣かずにグッと耐えていたかもしれない。そんなママさんのサポートや子供さんの健気な頑張りに「今日も道場に来てくれてありがとう！」と、素直に感謝の気持ちが湧いてくるのではないのでしょうか。

そう考えれば、「こんにちは！ 今日道場に来てくれてありがとう。先生は嬉しいです」と伝えたくくなりますね。「道場に来るのは当然のことだ、いつも泣いてきて本当に手が掛かる子だ」のように考えていると感謝の気持ちは湧いてきません。数ある道場の中から、この道場を選んでくれた親子に感謝です。また、知っている子もいない慣れない場所(道場)への恐怖心と戦いながら、頑張ってきてくれる幼少の子たちに本当に頭が下がります。

### ★すべての場面で「ありがとう」

養正館では、道場に来たら〈生活習慣改善カード〉を私に提出することになっていますが、「お願いします」と渡してくる幼少の子たちに、こちらからお辞儀をして「どうもありがとうございます」と言って受け取っています。

以下に挙げた例は、一切褒めていないのに、素直にその言葉を受け入れることができますし、さらに自分が大切にされていることを実感できる究極の声

掛けです。非難せず心から感謝することで、自ら協力したいと思わせ、やる気を出してもらえるのです。

◆「おしっこ漏らしちゃった」と自分から言ってきた子に。

「教えてくれてありがとう」

◆道場に不満を言いながら辞めていくママさんに。

「今まで長い間、本当にありがとうございました」

◆自宅で練習した我が子に。

「頑張っている姿を見せてくれてありがとう」

◆試合に出場した我が子に(勝敗に関わらず)。

「応援と観戦、楽しませてもらったよ。ありがとう」

◆指導方法にクレームを言ってきたママさんに。

「可能な限り改善して参ります。言い辛かったでしょうに、わざわざ教えていただきありがとうございます」

◆一度引き受けた試合のコート係を前日にドタキャンしたママさんに。

「代替わりの人にお願いしますのでご心配なく。こちらからお願いした節には、快く引き受けていただきありがとうございます」

### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞数の記録更新中。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12

## Column

### 全中選抜 養正館 4名出場決定！

全中選抜の静岡県予選会が、11月3日に開催されました。今年の養正館の結果ですが、4名の出場が決定しました。形3名、組手1名です。3月の彩の国杯では、入賞目指して頑張ります。

写真左から：

- 1年男子組手 1位 芹澤理一
- 2年女子形 2位 江藤凧沙
- 2年女子形 1位 倉岡穂乃花
- 1年女子形 2位 勝又美音

